

第1回 港区生物多様性推進委員会 議事要旨

日 時 平成24年 8月 27日 (月)

18:00～20:00

場 所 港区役所9階 914会議室

出席者 一ノ瀬 友博 委員長
中村 俊彦 副委員長
河野 博 委員
芳賀 勲 委員
平川 幸子 委員
村上 暁信 委員
矢野 亮 委員
山田 順之 委員
港区 環境リサイクル支援部長
環境課長
環境課緑化推進担当 3名
欠席者 本田 裕子 委員
三井 知之 委員

開会

事務局

本日はお忙しいなか、港区生物多様性推進委員会にご出席頂きましてありがとうございます。
初めに、環境リサイクル支援部長よりご挨拶申し上げます。

1. 環境リサイクル支援部長挨拶

ー環境リサイクル支援部長より、委員会開催について挨拶を行った。

2. 委員挨拶

ー各委員より挨拶が行われた。

3. 委員会の設置について

―事務局より、生物多様性推進委員会設置要綱について説明を行った。

4. 委嘱状交付

―各委員に委嘱状を交付した。

5. 委員長・副委員長選出

―生物多様性推進委員会設置要綱に基づき、委員長に一ノ瀬友博委員、副委員長に中村俊彦委員が選出された。

―委員長及び副委員長より挨拶が行われた。

6. 議事・発言要旨

（1）港区生物多様性地域戦略について

―事務局より、資料3、3-2、3-3、6、7について説明し、質疑応答を行った。

委員長

大きく分けると、スケジュールと全体の進め方、それと港区の現状についてがテーマかと思います。最初にスケジュールと全体の進め方についてご意見等がありましたら、お願いします。

委員

推進委員会の委員としては、どういうところに関わればよろしいでしょうか。

事務局

戦略づくりにあたって、5回の推進委員会を設けております。

その会議にご出席頂いて、ご議論をお願いしたいと考えております。また、皆様のご専門の分野については、具体的な施策の内容も含めてご相談にうかがいたいと思っています。委員会では、分野を絞ってご発言頂くというよりは、戦略全体を通してのご意見をお願いしたいと考えております。

委員長

たくさんの企画がありますが、事務局は千葉県の戦略について勉強して、区民を巻き込む手法に相当に苦心されて、ここまで練り上げています。委員の皆さんは、学識経験者、区内に在勤あ

るいは在住です。これは私の勝手な意見ですが、委員の皆さんにはぜひいろいろな場面に顔をだして頂いて、区民の方の雰囲気 perk をくみ上げて頂きたいと思います。

区民の皆さんから、いろいろな企画が提案されてくることが望ましく、そのためにグループ別意見交換会などが企画されています。委員会での議論が区民の皆さんの議論とずれてしまわないように、私たちがうまくつなぐ努力をする必要があります。

委員

区民会議にはとても期待しています。戦略を行政と一部の人がつくって、それを区民に紹介しても高い効果は望めません。区民の皆さんがつくったというようにする必要があります。

地域戦略とは何かということですが、生物環境をどうにかしようということをまず思い浮かべられると思います。しかし、そればかりではありません。我々人間は生物や生態系の一員として、生物、生命の関係の中に生きている。我々は今までは都市や経済、利便性というもので社会というものをつくってきましたが、命を見つめた社会というものを考えていくというところに大きな理念があると考えています。

単純に言うと食料はみんな命ですよ。食料や環境、あるいは文化、我々はそういったいろいろな生態系の恵みをうけて生きているということを、もう一度地域で見直そうというのが、戦略の理念であると思います。

それを担う区民の意見を全部吸い上げたもの、基本的にはそういう戦略をぜひつくって頂きたい。

千葉県はタウンミーティングを2ヵ月で17回やりました。その後は、地域ごとのタウンミーティングをやりました。生物多様性には生きものの視点もあるし、文化の視点もあるし、ごみ問題もあるし、あるいは農業とか食料の問題もあります。あらゆる問題に県民が気づいて、32の分科会ができました。32の分科会が自分たちと生物多様性との関係を研究して、県に対して32の提言ができました。

そのすべてを取り込むという基本的な姿勢のもとに、戦略をつくりました。一つのモデルということで、いろいろと使って頂けているのではないかと思います。

区民会議が4、5回では少ないと私は思いますが、これを一つの核としていろいろなグループができ、グループの人たちに、生物多様性との関係性の将来を考えて頂きたいです。

港区は外部依存の生態系です。単に「緑がある」ということではありません。我々人間が生きている生態系には、足元の生態系もありますが、港区は世界中の生態系と関わっているという認識から、出発して考える必要があると経験から感じています。

委員長

ありがとうございます。

11月10日のキックオフイベントで、先生にそういうお話をして頂く予定です。事業のピーアールと意見交換会があると、一方的に押しつけるようなイメージもあります。しかし、双方向性を持って進めるということですので、PRイベントと意見交換会が戦略策定の肝になると思います。

10月20日に最初のグループ別の意見交換会が予定されています。11月10日のキックオフイベントでは話題提供のシンポジウムから始まって、グループ別の議論を予定しているようです。委員の皆さんもぜひ顔を出して頂いて、盛り上げて頂きたいと思います。

港区には企業がたくさんあります。それから、外国人の方も多くお住まいです。これについても議論の対象になりますが、企業から参加される委員の方にはとくに頑張って頂きたいと思います。企業の皆さんとどのように連携して、逆に言えば企業の持っているよいところをどのように生かすのかということを、この中にも入れていければと考えています。

委員

(資料 10-1 の) PR イベントの中に「区民まつりでピーアールする」とあります。私も毎年区民まつりに参加していますが、今年はいつですか。また、ブースは出すのですか。

事務局

10月6、7日です。総合支所のブースの一部を借りることにしています。そこで、「10月20日と11月10日のイベントにぜひお越し下さい」というピーアールをする予定です。

委員

区民まつりでは、チラシがたくさん配られますので、ほとんどの方はあまり読まないと思います。ブースがあれば、そこで何か印象を残してもらおうとか、チラシについても少し読んでみようかと思うような工夫をお願いしたいです。

品物を無償で配っているところはとても混んでいて、配っていないところはパスみたいな傾向があるので、イベントに結びつけるためには、何か工夫が必要です。

事務局

工夫をさせていただきます。

委員

先ほどのご説明で、港区内のコミュニケーションというのは、いろいろと計画されていると思いました。また、周辺の都市域との連携という課題があげられていました。港区は外部依存が大きいという地域特性もあります。さらに港区の戦略は注目度が高くて、世界の範になるというこ

ともあります。それで、どういう形で港区外の方と連携していくかということも、一つのポイントになると思います。もう少し後かも知れませんが、スケジュールのなかで、どういうイメージをお持ちなのかということをお聞きしたいです。

事務局

港区内だけでおさまる話ではないということは、はっきりしていると考えています。(資料8で)計画の対象区域は港区としましたが、隣接する千代田区、中央区、江東区、品川区、渋谷区、新宿区のほか、東京湾岸の大田区、江戸川区といった関連区域と情報交換をしながら、お互いで何ができるのかということについて、早い時期から検討していきたいと考えています。

具体的な話は来年度以降になるかもしれませんが、面的につながるところとは、今年の段階で情報共有できる仕組みをつくりたいと考えています。

委員長

区民以外の広く一般の市民という意味では、ウェブ等を使った情報公開も進めていく予定かと思いますが、これについての説明はこれからですか。

事務局

港区の広報、港区のホームページだけだと、若い人たちに知って頂く機会が少ないと思うので、どういう形でウェブを使って情報発信ができるのかを検討しているところです。

一方的な情報発信であれば難しくはありませんが、双方向の場合にどのような方法がとれるのかを検討しています。年内には方向性はお伝えしようと考えています。この会議やいろいろなイベントについて、少なくとも港区のホームページを使って、こういうことをやっていますということなど、広くピーアールしていきたいと考えています。

委員

環境省は、戦略を周辺の地域とつくるということを推奨していますが、そういう事例はおそらくまだありません。周辺の区と連携して一緒につくるとか、一緒にできなくても、少なくともそういう関係を戦略に盛り込んでほしいと思います。スケールを拡大してみると、港区には大使館が多いので、関心のある大使館を取り込むとか、貿易や人事交流も考えてほしいと思います。外国との結びつきを戦略に盛り込むことは、ほかではできないことではないでしょうか。

事務局

港区は経済活動が活発です。地球温暖化対策の地域推進計画にも取り組んでいますが、CO₂の排出量が400万トンを超えていて、全国一という状態です。その一方で、港区のある都心部の経済が日本を引っ張っているという構造もございます。そういった中で、区民をはじめとした様々

な主体の意見を取り込む必要があると考えています。

ある程度は間口を広げた計画をつくって、周辺の自治体と協力できる体制をとりたいと思っています。水質に関しては東京湾岸自治体ということで、千葉県から江東区、大田区、神奈川県、川崎市と情報を共有しています。

それから、港区では47自治体と森と水会議を行っています。それらの自治体と協働で進めることができれば、おもしろいと考えています。今後、検討を進めますので、次回以降の委員会でご意見をお願いしたいと思います。

委員

11月10日のキックオフイベントと区民会議は一緒のものと考えていいのですか。

事務局

同日に開催する予定です。

委員

その中でのグルーピングについては、まだこれからということですか。

事務局

例えば水関係、樹木とか植物関係、高輪地区で何かをする会議とか、いろいろなパターンが考えられると思います。企業の方が入られたときには、どういうグルーピングがいいのかなど、いくつかのパターンかを想定しておいて、事前に応募して頂いた方や当日集まって頂いた方にご提案するか、もしくは話し合いたいテーマは何ですかという希望を出して頂いて、グルーピングをすることを想定しています。

委員

第4回の推進委員会は次年度に向けての展望となっていますが、26年度も何かをするということですか。

事務局

そうです。区民会議では、戦略をつくることのほか、つくった後、具体的に住民参加でどのように戦略を運用したらいいかについても、話し合って頂きたいと考えています。

委員長

資料7にある現状も戦略に書き込んでいくことになりますが、抜けている視点があれば、ぜひご指摘下さい。

委員

生態系というのはとても大きな視点ですから、「港区の生態系の現状」というよりは、「港区の

自然環境の現状」にしておいた方がいいのではないのでしょうか。

委員長

港区は外部にかなり依存して成り立っている区であるということも、戦略に明記しておくと思います。

委員

歴史的な視点は入ってくるのでしょうか。

委員長

変遷ですね。

事務局

まだそこまで整理しておりませんが、現状があるのは当然、過去からのつながりがあってのことですから、これについては整理をしたいと思います。

事務局

とくに海側は、まったく変わってしまっていますから、海だった頃からの変遷について整理したいと考えています。山側についても同様です。

今日お配りした資料の最後、資料12として連絡シートという用紙がございます。今日は議論して頂ける時間が短いので、今日お話し頂けなかった部分については、このシートでご意見を頂いて、それを事務局の方で集約し、委員の皆様にお返しして共有して頂く、その繰り返しをしていきたいと考えています。

とくに委員会の間が長く空きますので、イベントの報告も含めて、委員の方々に情報提供させて頂きます。逆に委員の方々からも、「委員会では話せなかったが、再考したらどうか」というようなご提案をお願いしたいと考えています。

委員

今の歴史の話は私もとても重要だと思います。生態系サービスの視点から言えば、例えば江戸時代や明治時代には、この地域の人と自然がどういうふうに関わっていたのかという話も大切だと思います。

それから、もう一つ。過去50～60年の緑や生物の変化はとても重要で、例えば緑が減ってきたということがあるかもしれません。最近10年ぐらいですと、ご説明頂いたように緑化が進んでいる部分がありますが、その評価手法については議論したいところです。そういう部分に関して情報を整理した方がいいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長

港区は情報の蓄積がとても多いですので、当然加えていくことになると思います。

事務局

後ろに掲示してある現状の緑被や樹林の高さ別の分布図や、古い時代のデータについてもできるだけ整理して、少なくとも写真ベースでは比較して、多くの方にご理解頂けるような資料づくりに努めます。

（２）地域戦略策定の基本的方向について

一事務局より、資料８について説明し、質疑応答を行った。

委員長

最初に計画期間と目標期間についてご意見をお願いします。目標期間として、COP10に合わせて短期は2020年、中長期は2050年、見直しの期間としては、既に2012年でもありますので、2020年に向けて必要に応じて4年で見直すという計画になっています。

委員長

特段のご意見がなければよろしいですか。

次に視点、将来像、行動計画について、ご意見をお願いします。

委員

視点については、すべて重要だと思います。

私は土壌に興味を持っています。港区はCO₂の排出量が多いという話がありましたが、土壌のCO₂の吸収機能のことは、あまり知られていないと思います。直接目につく植物だけでなく、土壌の重要性についても触れて頂きたいと思います。

事務局

土壌はすべての生物の基盤です。行動計画や理念に取り入れる前提で検討します。

委員

先日、区内での再開発が竣工しました。そのときに、関係者がJHEPを取得していることをPRされていきました。今日の資料ではJHEPについては書いていないのですが、これについてどうでしょうか。

事務局

緑と水の総合計画では、緑化計画書制度の見直し、優良な緑化の継続的な表彰制度、生態系を

考慮したJHEPなど、そのような評価手法について見直しをすることにしています。戦略の行動計画に、そういった内容まで書き込むかどうかは、今後委員の皆さんのご意見もお聞きしながら、考えていきたいと考えています。

いろいろな形で企業の皆さんの行動を継続的に評価していくことは、とても大切です。インセンティブであると企業の方が感じて頂けるためには、どういう手法が適切なのかについて、今後検討を進めます。

委員

HEP とか JHEP といった定量的な評価手法がありますが、数値では解らないこともあると思います。人間の体を健康にするためにはどうしたらいいかと一緒に、診察して診断して治療したら元気になる。元気になった結果としてオオタカが来るという状況を想定すれば、それはとても緻密で、しっかりした対策をとる必要があります。HEP で点数が何点だったからということだけではないと思います。

委員

事業者からすると、表彰制度というのはとても重要なことで、環境改善にコミットする唯一のインセンティブになるかもしれません。

もちろんそれがすべてではないですが、本当に環境改善を目指すのであれば、事業者がそういうことを大事だと思っていることを踏まえて、自治体がそれをどのようにマネージするかという戦略を持つ必要があると思います。

その部分が欠けると、事業者からすれば、数字をクリアすることが目的化してしまいます。自治体を目指す最終目標は本当の環境改善であるべきであって、その手法が何らかの表彰制度だと思っています。それをいかに活用していくかという戦略がとても大切ですので、ぜひ議論したいところです。うまく活用できれば、実際の環境改善に役立つでしょうが、うまく使えなければ環境は何もよくなりません。

委員

多くの生物屋はあまり数値を使わないので、それは無理だろうと思ってしまいますが、工学系の人たちは数値で環境がよくなかったとか、悪くなったとか、そういう評価をする傾向があると思います。

いい悪いではなくて、生物は動いていて、こうして産卵して、こうして大きくなってということを知ってしまうと、そういう評価はできないと思ってしまいます。

委員

要するに数値で判断したとしても、自然のお医者さんみたいな人は必要です。数値だけで評価するのではなくて、それを適切に評価できる、本当に現場を担っている人材、そのような人材が日本社会には少ないのではないのでしょうか。我々は、体の調子が悪かったら、お医者さんに行って健康を取り戻そうとしますが、自然のお医者さんみたいな人が港区にはいるということが、戦略に書いてあればいいのではないのでしょうか。

戦略をつくって終わりではなくて、それで区が少し変わってほしいです。少なくとも生物多様性を担うような人材がいないと、今みたいな話というのはただの数値になってしまい、うまくいきません。反対に、それを悪用している例を私はたくさん見てきています。だから、そこまで覚悟を決めて、区には取り組んでほしいです。

委員

我々は今、人材育成をやっていて、港区民の方々に海のことを一緒に勉強して頂いています。そのような人材育成も重要だと思います。

委員

それと、モニタリングまで条件化するという内容が戦略に入れられればいいと思います。

委員

民間では数値目標の話はありますが、行政の目標はもう少しやわらかい方がいいと思っています。ロンドンオリンピックでは、たしかクロジョウビタキを戻すということをテーマに、ビルの改修などを行ったと記憶しています。また、豊岡市のコウノトリ、大田区の水再生センターのコアジサシというように、いろいろなエコロジカルネットワークの考え方があります。自治体レベルで考える場合は、そういうシンボルをいくつか挙げていくとフィットすると思いました。まさに悪用されないためにということです。

あともう一つ。目標期間でCOP10と愛知目標ということがでていましたし、よく整理された策定の視点があります。愛知目標を見ても、一般の方だけでなく、我々も含めてあまりびんと来ないと思うので、例えば生態系サービスを重視するということは愛知目標のどれにリンクしているとか、地球温暖化のところはどれにリンクしているというような整理が加わると、わかりやすくなると思いました。

委員長

今だけでもたくさんの論点が出ています。とくに河野委員が言われた人材育成について、資料にある視点にはあまり入っていませんが、これは重要なことだと思います。

次に数値の問題、たまたまJHEPの話が出ました。区の計画で、具体的にどの数値がこうなればいいみたいなことまで書くことはないと思いますが、実際にそういった提案をされている事例はあります。先ほど指摘があったように、何らかのインセンティブをつくって、絶対うまく巻き込むという姿勢が重要だと思います。

それから、今お話を聞いていて、港区の場合には少なくとも議論していく段階では、区民と事業者を切り離して考えた方がいいかもしれないと思いました。

2つを別にするというのではなくて、インセンティブがかなり異なるので、事業者については、事業活動をしていくなかで、積極的に関わりやすくなるためにはどうしたらいいかについて、じっくり考える必要があると思います。

委員

区民と事業者を一緒にした方がいいのかどうかということは、私もよくわかりません。

ただ、区民、事業者とも、広い意味では区民ということで、そういう区民がつくる戦略、自分たちがつくって担う戦略、そういう理念はぜひ持って頂きたいと思います。

区やこの委員会が戦略をつくるのではないというスタンスで、区民や事業者の方々が本気になってつくるということを醸し出すことが重要だと思います。

行動計画を例示していますが、これを見てしまうと頭がそこにいってしまいます。そうすると、斬新な発想とか、区に特徴的なもの等は出にくくなってしまいます。それぞれの意見がこの中のどこかに収められてしまいます。

千葉の場合は白紙の段階という言い方をしましたが、そうするとユニークな発想がでできます。

委員

ここにある行動計画を全部できるのかなという気がします。それから港区としては、ここを重点的にやっていきたいというメリハリ。これからの会議で決まることなのかもしれませんが、並列にしていると、どこに力が入っているかが見えてきません。

まだ決まってはいいないと思いますが、港区らしいことをピックアップして、それを重点的に押し出すようなことが必要かと思います。それぞれはもったもなことです、どこでもやっていることのようにも見えるので、その辺の工夫をお願いします。

委員長

ご指摘のとおりです。事務局の思いも本当は真っ白だと思います。ただ、今日は白を出すわけにはいかないので、例として資料を作ったということでしょうか。

事務局

ご指摘のとおりです。港区らしさといいますか、区民の方、事業者の方が主体的に取り組んでいけることを考えて、大まかに全体を網羅して想定しておく必要はありますが、集中的に資源や人を投入するところと、そうではないところを切り分けていくことも重要であると思っています。自治体がつくる計画では、網羅した結果として何も動いていないケースもありますので、その点は注意したいと思います。

委員

できたときの区の立場と、区民全体がこういう戦略に取り組むということは別に考えた方がいいと思います。区の責任として重点的なものというのは必要ですが、これも区民の意思から盛り上がってきたものを港区が受け取ったという形にしてほしいです。

委員

賛成です。緑と水の総合計画では、パブリックコメントのほかに、区民が意見を言える説明会が何度かありました。タイミングが悪くて私は行けませんでした。出席者数をお聞きしたところ、少なかったようです。

区民が盛り上がって、事業者の人も一緒になってやってくれるようにしてほしいです。区民が来ないで、事業者の方だけがある程度頑張っているということだと、私たちはやらないみたいになってしまうので、みんなが本当に自分の問題であると思うように、広報の工夫をお願いします。

委員

不勉強で恐縮ですが、生物多様性の概念や価値というのは、どう考えていくものですか。私自身は都市計画分野の仕事をすることが多いです。私も区民が自発的にということはとても大切だと思います。しかし、言い方が難しいのですが、区民だけが盛り上がった場合に、必ずしもいい案を提示しているわけでもないと感じています。

生物多様性に関して、例えば千葉県でとてもすぐれた経験をお持ちと伺いまして、例えば市民から正しくないものが出てくるケースを心配しなくてもいいもののでしょうか。

私の甥っ子はザリガニ好きですが、ザリガニで池を埋め尽くしていいのかどうか。そういうことについて市民で論議を重ねていけば、いい効果がでてくると思います。そういうふううまく進めるための工夫はとても大切なことだと思います。

委員

人間社会では、ダイバーシティの概念とデベロップメントの概念が必要です。

ザリガニについても、いろいろな価値観があります。外来種だから悪いといった考えは必ずしも正しくないと思います。ザリガニは子どもにとっては命を学ぶ最高のものであるという見方もできるわけです。

しかし、現実にはザリガニがいろいろな在来生物を駆逐してしまっています。生物多様性とは？と聞いたら、研究者によって回答が違ってくると思います。答えが決まっているというものではないものを、多様性という概念で、みんなでつくり上げていくのが一つの終着点であると思います。生物多様性のとても難しいところですが、おもしろいところであるというように解釈するといいと思います。

市民からはときにはおかしい意見も出てきます。でも、みんなでやっているとそれは淘汰されます。例えば、市民が区に対して個人攻撃をするとか、特定のものを悪者扱いするとか、そういうものは出てくるかもしれませんが、「それはおかしい」という話が普通は出てきます。

最終的には区としてまとめる必要がありますが、基本的には優先順位を決める必要はなくて、全部取り込みますと言っていいと思います。しかし、これまでの施策や法律との整合は、区としては図らなければいけません。そういうフィルターがあるし、みんなで議論していたら、その意見は行き過ぎという意見がでてくることにも期待して、区民を巻き込むことが重要だと思います。

委員

区民の皆さんはそういう思いでおられると思いますが、議論をして理解を深めていくということに一番の重きがあるのではないのでしょうか。

委員

そういうプロセスは、つくる段階ではとても大切なことです。

委員

行動計画にある屋上緑化の推進ですが、これで緑の量は増えるかもしれないですが、生物を介して自然の理解を深めるというのとは違う内容がいくつかありますので、そのあたりは丁寧に書いていく必要があると思います。

委員

最後まで、いろいろな人が見ながら決めていかざるを得ないのではないのでしょうか。

事務局

行動計画については、もちろん先生方のご意見を踏まえ、区民の皆さんから頂くご意見や区民会議での議論をうけて、いい方向にいければと考えています。区民会議では、次の世代のことも念頭において、いい案が出てくれるであろうという考えで進めます。

委員長

今の議論もとても重要なところです。そういう意味でも、区民会議等には、先生方にぜひ顔を出して頂きたいです。実際の会議の運営は、専門のファシリテーターを用意するということですが、どんな議論が盛り上がっているのか、どんな方向に進んでいるのかということを我々が見ていきながら、誘導するのではなくて、その中で議論していくというようなスタンスが大切だと思います。

（３）策定作業の実施方法について

一事務局より、資料 9-1～5、10-1～2、11-1～3 について説明し、質疑応答を行った。

委員長

テーマは、アンケート、区民会議と意見交換会、生物多様性の現状の整理・評価の大きく3つです。

最初はアンケートです。アンケートは対象ごとに、それぞれ別のものを送ります。区民向け、事業者向け、教育機関向け、それから児童・生徒向けが用意されています。

委員の皆さんは経験豊富でいらっしゃると思いますので、じっくり読んで頂いて、こういう項目があった方がいいとか、こういう書き方はよくないというご意見を頂けますでしょうか。

これは規模の大きなアンケートでして、区民が3,000、児童・生徒も3,000です。こういう機会は滅多にないと思います。とくに児童・生徒向けについては、環境教育等に関わられている委員の皆さんは、お子さんのことをご存じだと思いますので、改善案がありましたらぜひお願いします。

あとキックオフイベントについては、構成が詰め切れていないようですが、逆に言うとまだ決まってない段階ですので、こういう形にしたらというご意見を頂ければと思います。

それから、今、気がついたのですが、例えば当日の先生のご講演等を録画して、You Tubeで見られるようにするということは可能ですか。そうすると、スタートがそのお話だったということ、当日参加されなかった人も共有できます。もちろん先生方の承諾が必要ですが、そういう工夫もお願いしたいところです。

それから、意見交換会。これもすぐに始まりますので、早目にアイデアをお願いします。

その後に説明があった資料11の生物多様性の評価及び戦略への反映、これも重要で、補足調査も計画されています。こちらについてもお願いします。現状の評価手法や作業フローについては、

これからの議論で大いに変わると思います。

顔を突き合わせてディスカッションする時間はあまりとれないですが、皆さんから集まったご意見を皆さんにフィードバックする形にして、どの委員からどういう意見が来ているというのをできるだけ共有して進めるとのことです。その間に区民の検討が進んでいきますので、両方をうまくすり合わせていけるようにしたいと考えています。

委員

キックオフイベントでは、私は私なりの生物多様性の話をしますが、委員の方で当日都合のつく方はぜひ来て頂いて、委員として発言するなり、生物多様性についてお話頂きたいと思います。委員長は外国に行かれていて無理とお伺いしていますが、ほかの方で調整のつく方はぜひお願いします。

アンケートですが、生物多様性のアンケートではなくて、環境部局として自然環境のアンケートをするという理解で、よろしいでしょうか。

事務局

生物多様性に限ったことではなく、環境課で行っている事業についてもお伺いしたいと思っています。

委員

区民に考えて頂いて、その気にさせるオピニオンプールというアンケートのやり方があります。これをこの時期にやって、区民の思いをいろいろな形で吸い上げて、区民を巻き込む。今は区が聞きたいことが先にある構造になっているので、その辺を工夫した方がいいと思います。

事務局

今回のアンケートでは、区民がどれだけ生物多様性というものに対して理解や関心を持っているかという、区民の意識の現状を把握したいと考えています。

頂いたご意見を踏まえアンケートを修正したいと思います。また、外国人の方にもアンケートを行いたいと考えています。

設問数が多くなり過ぎてしまうと、書き込んでもらえなくなるという心配があります。生物多様性のある程度理解されている方よりは、されていない方の方が多いところから発展してこうなりました。中身については改めてご相談させていただきます。

委員長

大事な点だと思います。

委員

港区生物現況調査（第2次）の報告書は、自然教育園については、自然教育園の文献からほとんど引用しています。ところが、自然教育園の研究力は今、ゼロになってしまいました。これからはほとんど研究ができない状態です。もし可能であれば港区で研究を継続してもらえると、今までのデータをより活かします。

鳥については、野鳥の会の人たちと個人的に親しいものですから、調査して頂いていますが、ほかは今のところまだ見通しがありません。うちの園長、副園長との相談ごとではありますが、そういう事情があるものですから、ご協力をお願いすることがあるかもしれないということをお伝えしておきます。

事務局

ご相談させていただきます。

委員

豊岡市のコウノトリのような珍しい動物がいたら、まとまるきっかけになると思います。

委員

アンケートのところで3点。何のためのアンケートなのか、何に使うのか、例えば社名を書いたら公表するのか、そういったことははっきり書いて頂きたいです。

それから、区民のアンケートだと、環境保全活動に参加している人は多分年代的に限られています。20歳代の人が何で参加しないのかとか、どうしたら参加したくなるのかというところを、ぜひ聞いて頂きたいと思います。

最後に、教育機関向けについて。保育士さん等も回答されると思いますが、外来生物の具体的な種名を書いた方が答えやすいと思います。

委員長

ありがとうございます。

もう時間がありませんが、個別に皆さんのご意見をできるだけ集めて共有していくということをしてしたいと思いますので、連絡シートでのご意見をぜひお願いします。

キックオフイベントが重要な場になると思いますので、委員の皆さんにはできるだけ足を運んで頂いて、盛り上がっているのか、いないのかも含めて、様子を見て頂きたいと思います。委員会ばかりが盛り上がっていると、かなり困った状況になってしまうので、ぜひよろしくお願いします。

終わりましたので、事務局に戻したいと思います。

閉会

事務局

次回の港区生物多様性推進委員会の開催日時は、1 月 23 日（水）18:00～20:00 とさせていただきます。本日は長時間、ありがとうございました。

以上